

要介護者の旅行を阻害する要因

— 介護者を対象とする意識調査から —

研究開発室 水野 映子

目次

- 1. 調査研究の概要…………… 17
- 2. 要介護者との旅行に対する介護者の意識…………… 19
- 3. まとめと課題…………… 25

要旨

- ① 介護を必要とする人およびその介護者の旅行の実態と旅行に対する意識を明らかにするため、現在家族を介護している800人を対象とするアンケート調査をおこなった。回答者のうち、現在介護している家族（要介護者）と一緒に「旅行したことがある」人（旅行経験者）は28.5%、「旅行したことはない」人（旅行非経験者）は71.5%であった。
- ② 旅行非経験者が旅行したことがない理由としては、「要介護者が旅行するのは無理だと思うから」（40.6%）、「要介護者が旅行したがるから」（31.5%）が上位にあがった。
- ③ 旅行非経験者がもし要介護者と旅行するとしたら不安なことは「要介護者が宿泊先で入浴することが難しい」「目的地での移動が難しい」などである。旅行経験者も旅行前に同種の不安を感じているが、旅行非経験者に比べるとその不安は小さい。また、実際に旅行した際に感じた困難は、旅行前に感じた不安よりさらに小さい。
- ④ 旅行経験者や旅行非経験者が要介護者と旅行できるかどうかを検討するために見聞きした・調べた情報、旅行経験者が旅行できると判断した理由になった情報、旅行時に役立つ情報は、いずれも「自分が介護している要介護者の話」と「インターネットの情報」が多い。
- ⑤ 調査結果から、要介護者の旅行を阻害する主な要因は、介護者の不安や時間・費用・情報の不足、介護者からみた要介護者の旅行意向の低さなどであることが示唆された。要介護者が円滑に旅行できるようにするためには、不安の解消に役立つ情報や身体的・経済的負担を軽減する設備・サービスなどの充実が必要と考えられる。

キーワード：介護、観光、ユニバーサルツーリズム

1. 調査研究の概要

(1) 要介護者等の旅行をめぐる需給の動向

高齢化の進行とともに、介護を必要とする人が年々増加している。それにともない、介護が必要になっても旅行したいという人や、介護を必要とする親などを旅行に連れて行って孝行したいという人も増えていることが予想される。

一方、供給側についてみると、加齢によって介護が必要になった人や身体機能が低下した人、障害者、外国人など移動や情報入手に制約がある人を含め、誰もが旅行を楽しめるようにするための取り組みがさかんになっている。そうした取り組みは、新たな観光需要の創出、地域の活性化や環境整備、自由に移動する権利の保障などの観点から、国や自治体、民間事業者、NPO などによって進められている(国土交通省 2008、日本観光協会 2008 等)。また、「バリアフリー」「ユニバーサル(デザイン)」「アクセシブル」と、「旅行」「ツーリズム」「観光」とを組み合わせて、「バリアフリー旅行」「ユニバーサルツーリズム」「アクセシブル観光」といった言葉も使われるようになってきている。

(2) 本調査研究の問題設定と目的

介護を必要とする人の旅行を妨げると思われる要因は、大きくは次の3つに分けられる。第1は、旅行のための設備やサービスが介護を必要とする人にとって使いにくい、または使えないことである。第2は、適切な設備やサービスがあってもそれに関する情報がない、あるいは情報があっても本人やその介護者が情報にたどり着けないことである。第3は、介護を必要とする人が旅行することは難しいという意識を、本人やその介護者が持っていることである。

これまで、第1の旅行のための設備やサービスについては調査研究などが進められており、第2の旅行に関する情報についても注目されつつあるが、第3の旅行に対する意識についてはあまり触れられてこなかった。そこで本調査研究においては、介護を必要とする人やその介護者が旅行に対してどのような意識を持っているのか、特にどのような意識が旅行を阻害しているのかを明らかにするためのアンケート調査を実施し、彼らが旅行しやすくなるための課題を検討することとした。

(3) アンケート調査の方法

介護を必要とする人自身がアンケート調査に回答することは困難な場合が多いと判断し、家族を「現在、介護している」と答えた全国の男女800名を回答者として抽出した。調査は株式会社クロス・マーケティングに委託し、インターネットを通じて2011年11月に実施した。

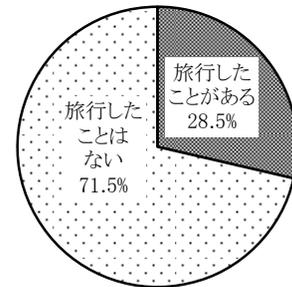
(4) 回答者・要介護者の特性

1) 要介護者との旅行経験の有無

現在介護している家族（以下、「要介護者」）に介護が必要になった後、その人と一緒に旅行したことがあるかたずねた*1。その結果、「旅行したことがある」と答えた人は28.5%、「旅行したことはない」と答えた人は71.5%であった（図表1）。以下では前者を「旅行経験者」、後者を「旅行非経験者」と表記する。

旅行経験者に対しては要介護者（複数いる場合は最も身近な人）と一緒にいった直近の旅行の実態*2およびその旅行に対する意識、旅行非経験者に対しては要介護者（複数いる場合は最も身近な人）との旅行に対する意識についてたずねた。

図表1 要介護者との旅行経験の有無 (n=800)



2) 回答者・要介護者の属性

図表2には、回答者（旅行時・現在の旅行経験者、現在の旅行非経験者）の属性、およびそれぞれの要介護者の属性を示す。

図表2 回答者・要介護者の属性

(単位: %)

[回答者]注1

	性別			年齢					
	男性	女性	計	30歳未満	30代	40代	50代	60歳以上	計
経験者(旅行時)	57.0	43.0	100.0	9.2	21.9	32.9	25.9	10.1	100.0
経験者(現在)				7.9	15.4	32.0	31.1	13.6	100.0
非経験者(現在)	54.4	45.6	100.0	8.6	12.4	31.1	30.4	17.5	100.0

[要介護者]注2

	回答者からみた続柄							計
	自分の父親	自分の母親	配偶者の父親	配偶者の母親	祖父母	配偶者	その他	
経験者(現在)	21.9	32.0	3.9	11.8	10.1	12.3	7.9	100.0
非経験者(現在)	23.3	39.0	5.1	11.5	14.2	2.4	4.5	100.0

	年齢					要支援・要介護度					
	60歳未満	60代	70代	80歳以上	計	要支援	要介護1~2	要介護3~5	認定は受けていない	わからない	計
経験者(旅行時)	19.7	12.3	29.4	38.6	100.0	22.8	32.9	24.6	11.4	8.3	100.0
経験者(現在)	12.7	7.9	27.2	52.2	100.0	18.4	32.9	32.5	9.2	7.0	100.0
非経験者(現在)	4.7	7.9	28.5	58.9	100.0	13.0	30.8	38.9	9.3	8.1	100.0

身体状況<複数回答>

	移動		入浴	排泄	おむつを使用	寝起きの要	食事制限あり	食事の困難	介助の要	その他			どれもない	
	つえを使用	歩行補助車を使用	介助が必要	介助がに必要						認知症あり	持病あり	他障日		
経験者(旅行時)	45.2	9.6	30.3	46.5	22.4	30.3	20.6	17.1	5.7	17.5	31.6	44.3	13.6	4.8
経験者(現在)	42.5	12.7	38.6	61.0	26.8	35.1	25.0	19.3	12.3	19.3	37.7	48.2	15.8	1.8
非経験者(現在)	35.8	11.2	46.3	69.4	25.5	45.1	34.1	22.6	13.6	19.1	44.8	45.1	13.3	1.6

注1：「経験者(旅行時)」とは旅行経験者(n=228)の旅行時の属性、「経験者(現在)」とは旅行経験者(n=228)の現在の属性、「非経験者(現在)」とは旅行非経験者(n=572)の現在の属性

注2：「経験者(旅行時)」とは旅行経験者(n=228)の要介護者の旅行時の属性、「経験者(現在)」とは旅行経験者(n=228)の要介護者の現在の属性、「非経験者(現在)」とは旅行非経験者(n=572)の要介護者の現在の属性

回答者の性別は、旅行経験者・非経験者ともに男性の割合のほうがやや高く、両者の差はほとんどない。回答者の年齢は、旅行時の旅行経験者、現在の旅行経験者、現在の旅行非経験者ともに40代が3割強で最も多く、50代が続く。

要介護者の続柄は、旅行経験者・非経験者のいずれにおいても「自分の母親」「自分の父親」の順に多く、両者を合わせると半数を超える。要介護者の年齢、要支援・要介護度、身体状況をみると、旅行時・現在の旅行経験者の要介護者に比べて現在の旅行非経験者の要介護者のほうが高齢であり、介護・介助が必要な状況にある。

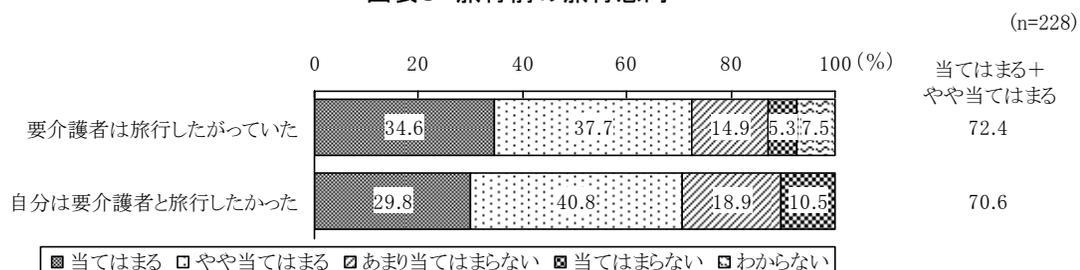
2. 要介護者との旅行に対する介護者の意識

(1) 旅行意向

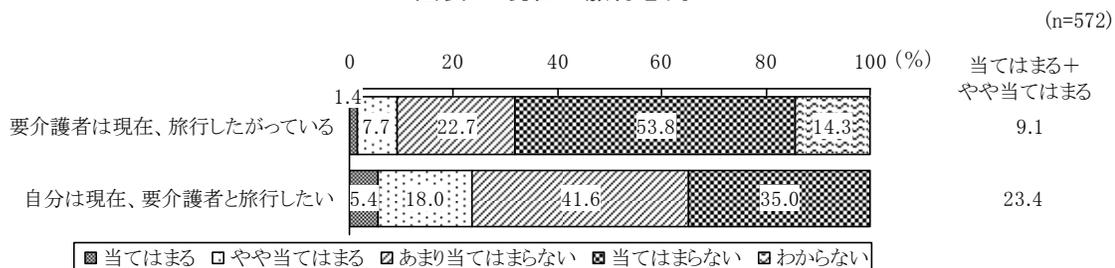
旅行経験者に対し、要介護者と回答者自身の旅行前の旅行意向をたずねた。図表3の通り、「要介護者は旅行したがっていた」「自分は要介護者と旅行しなかった」に当てはまると答えた割合は、それぞれ72.4%、70.6%でありともに高い。

一方、旅行非経験者に対しては、要介護者と回答者自身の現在の旅行意向をたずねた。図表4の通り、「要介護者は現在、旅行したがっている」「自分は現在、要介護者と旅行したい」に当てはまると答えた割合はそれぞれ9.1%、23.4%であり、旅行経験者の旅行前の旅行意向に比べて極めて低い。

図表3 旅行前の旅行意向



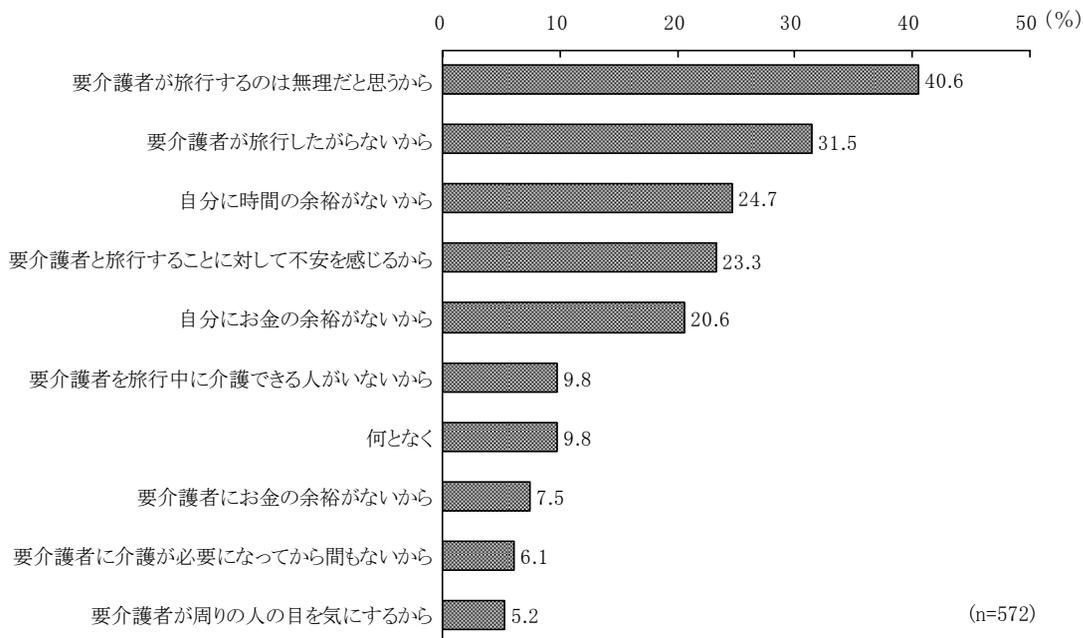
図表4 現在の旅行意向



(2) 旅行したことがない理由

旅行非経験者に対し、旅行したことがない理由を複数回答でたずねた。図表5の通り、「要介護者が旅行するのは無理だと思うから」(40.6%)、「要介護者が旅行したがないから」(31.5%)、「自分に時間の余裕がないから」(24.7%)、「要介護者と旅行することに対して不安を感じるから」(23.3%)、「自分にお金の余裕がないから」(20.6%)の順に多い。その他の項目は1割に満たない。旅行は無理・不安という介護者側の心理的要因、旅行したがないという要介護者側の心理的要因、そして時間・費用の余裕がないという介護者側の時間的・経済的要因が、要介護者の旅行を妨げているといえる。

図表5 要介護者と旅行したことがない理由<複数回答>



注1：図表4注1に同じ

注2：回答率が5.0%未満の項目(「自分が旅行したくないから」4.9%、「要介護者と旅行する人が他にいるから」3.7%、「要介護者に時間の余裕がないから」3.5%、「医療関係者が旅行に反対するから」2.8%、「要介護者とは旅行するほど親しくないから」1.9%、「介護関係者が旅行に反対するから」1.9%、「家族・親戚が旅行に反対するから」1.4%、「周りの人の目が気になるから」1.0%)、および「その他の理由」(5.8%)はグラフでは省略

(3) 旅行に対する不安

1) 旅行非経験者

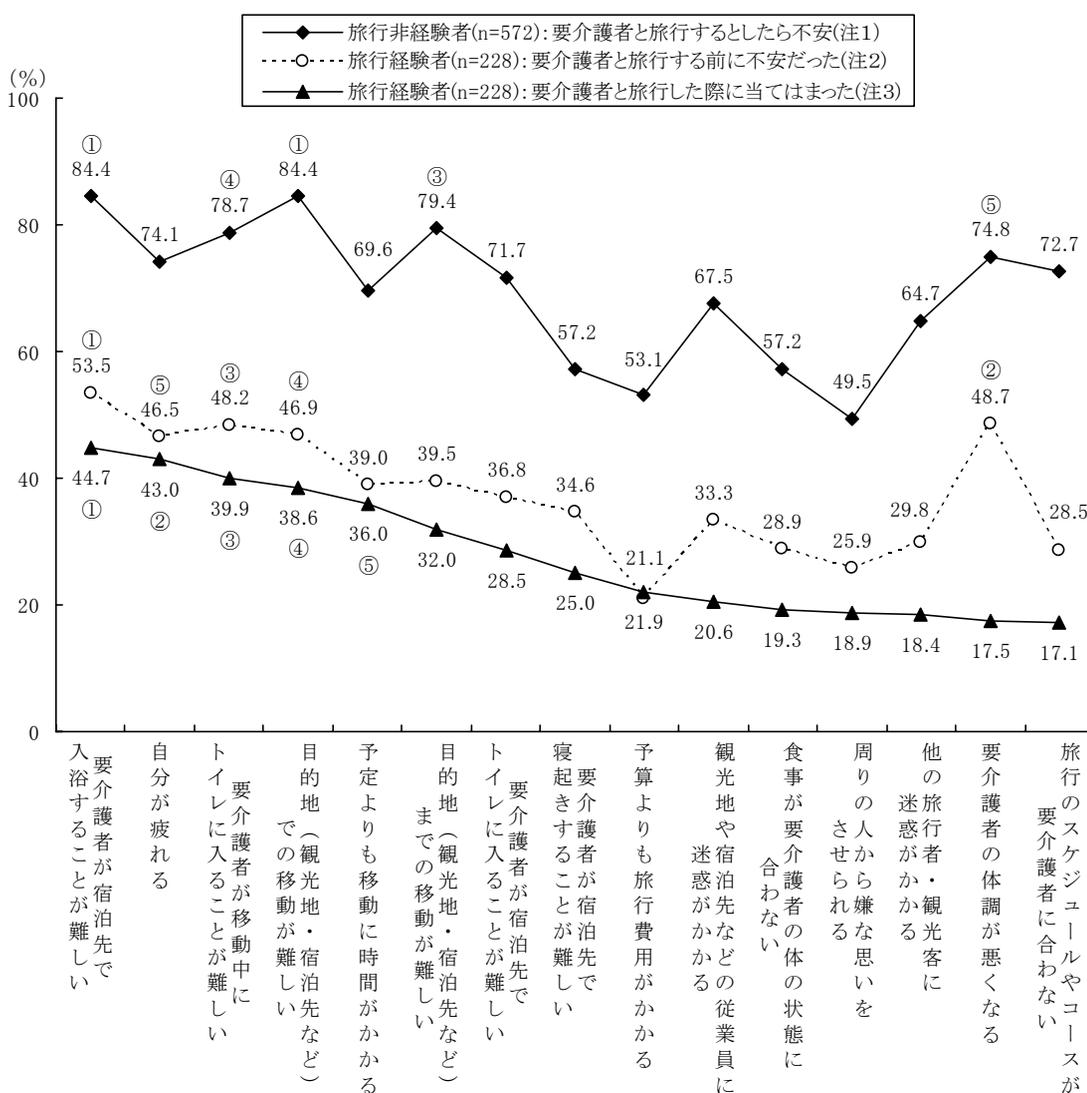
旅行非経験者に対し、今後もし要介護者と旅行するとしたらどのようなことが不安かたずねた。図表6の通り、不安(「不安」+「やや不安」と答えた割合は「要介護者が宿泊先で入浴することが難しい」「目的地(観光地・宿泊先など)での移動が難しい」(それぞれ84.4%)、「目的地(観光地・宿泊先など)までの移動が難しい」(79.4%)、「要介護者が移動中にトイレに入ることが難しい」(78.7%)が8割前後を占める。その他のほとんどの項目に対しても過半数が不安と答えている。

2)旅行経験者

旅行経験者に対しては、要介護者と旅行する前にどのようなことが不安だったかたずねた。図表6の通り、不安だった（「不安だった」＋「やや不安だった」）と答えた割合は「要介護者が宿泊先で入浴することが難しい」（53.5%）、「要介護者の体調が悪くなる」（48.7%）、「要介護者が移動中にトイレに入ることが難しい」（48.2%）の順に高い。旅行非経験者と同じく、宿泊先での入浴が最大の気掛かりになっている。

旅行非経験者が要介護者と旅行するとした場合の不安と比べると、いずれの項目の割合もかなり低い。すなわち、旅行経験者が旅行前に感じた不安のほうが小さい。

図表6 要介護者との旅行に対する不安、旅行時の困難



注1：旅行非経験者が「不安」または「やや不安」と答えた割合
 注2：旅行経験者が「不安だった」または「やや不安だった」と答えた割合
 注3：旅行経験者が「当てはまった」または「やや当てはまった」と答えた割合
 注4：丸数字はそれぞれ上位5項目の順位

(4) 旅行時の困難

次に旅行経験者に対し、要介護者と旅行した際にどのようなことが当てはまらなかったかたずねた。前出の図表6の通り、当てはまった（「当てはまった」＋「やや当てはまった」）と答えた割合は「要介護者が宿泊先で入浴することが難しい」（44.7%）、「自分が疲れる」（43.0%）、「要介護者が移動中にトイレに入ることが難しい」（39.9%）、「目的地での移動が難しい」（38.6%）の順に高い。1・3・4位の項目は、旅行前に感じた不安で1・3・4位にあがった項目と同じである。

旅行前の不安と比べると、差がほとんどないのは「予算よりも旅行費用がかかる」「予定よりも移動に時間がかかる」「自分が疲れる」である。旅行にかかる費用・時間や介護者の身体的負担はおおむね予想通りだったことがわかる。逆に、不安と困難の差が大きいのは「要介護者の体調が悪くなる」である。つまり、心配したほど体調は悪くなっていない。

(5) 旅行前に入手した情報に対する評価

1) 旅行前に入手した情報とその影響

a) 旅行経験者

旅行経験者に対し、要介護者と旅行できるかどうかを検討するために見聞きしたり調べたりした（以下「見聞きした・調べた」）情報をたずねた。図表7の通り、「自分が介護している要介護者の話」（37.3%）、「インターネットの情報」（33.3%）、「宿泊先の従業員の話」（22.8%）の順に多い。

見聞きした・調べた情報のうち旅行できると判断した理由になった情報をたずねたところ、見聞きした・調べた情報と同様に1・2・3位にはそれぞれ「自分が介護している要介護者の話」（26.8%）、「インターネットの情報」（21.1%）、「宿泊先の従業員の話」（15.8%）があがった。

一方、見聞きした・調べた情報のうち旅行した時に役立った情報をたずねた結果では、「インターネットの情報」（21.5%）が最も多く、次に「自分が介護している要介護者」（17.1%）、「宿泊先の従業員の話」（14.9%）となった。

b) 旅行非経験者

旅行非経験者に対しては、まず要介護者との旅行を検討したことがあるかどうかたずねた。検討したことがある人は32.0%（「現在検討している」7.3%＋「現在は検討していないが過去に検討したことがある」24.7%）、「検討したことはない」人は68.0%であった（図表省略）。

次に、要介護者との旅行を検討したことがある旅行非経験者に対し、旅行できるかどうかを検討するために見聞きした・調べた情報をたずねた。図表7の通り、最も多いのは「自分が介護している要介護者の話」（38.8%）で、「インターネットの情報」（25.7%）が続く。

一方、要介護者との旅行をあきらめる理由になった情報をたずねた結果では、「自分が介護している要介護者の話」(29.5%)が突出している。さまざまな情報を得て検討しながらも、旅行をあきらめる決め手は要介護者本人にある。

旅行経験者・非経験者を比較すると、「自分が介護している要介護者の話」は旅行経験者が旅行できると判断した理由にも、旅行非経験者が旅行をあきらめた理由にもなっている。一方、「インターネットの情報」は旅行できると判断した理由にはなっているが、旅行をあきらめる理由にはほとんどなっていない。要介護者の話は旅行の阻害要因にも促進要因にもなるが、インターネットの情報は主に促進要因として働くといえる。

図表7 旅行前に入手した情報<複数回答>

	旅行経験者(n=228)			旅行非経験者のうち旅行を検討したことがある人(n=183)		
	見聞きした・調べた	旅行できると判断した理由になった	旅行した時に役立った	見聞きした・調べた	旅行をあきらめる理由になった	
家族・知人の話	自分が介護している要介護者の話	37.3% ①	26.8% ①	17.1% ②	38.8% ①	29.5% ①
	自分が介護している要介護者以外の要介護者の話	16.7% ⑤	11.0% ⑤	9.2%	13.7% ⑤	6.0% ⑤
	要介護者と旅行した経験がある家族・親戚・知人の話	18.9% ④	12.3% ④	11.0% ④	18.6% ③	9.8% ②
	それ以外で旅行の目的地に行ったり住んだりしたことがある家族・親戚・知人の話	8.8%	4.4%	3.5%	4.9%	0.5%
	その他の家族・親戚・知人の話	15.4%	11.0%	7.9%	10.4%	4.9%
スタッフなどの専門家の話	宿泊先の従業員の話 (電話等で聞いた話も含む)	22.8% ③	15.8% ③	14.9% ③	7.7%	3.3%
	旅行会社の人の話 (電話等で聞いた話も含む)	11.0%	6.6%	6.1%	7.7%	2.2%
	観光案内所・情報センターの人の話 (電話等で聞いた話も含む)	8.8%	2.6%	3.9%	4.4%	1.1%
	観光地の従業員の話 (電話等で聞いた話も含む)	6.1%	3.9%	3.5%	2.2%	0.5%
	介護関係者(ホームヘルパー、ケアマネジャー、施設職員など)の話	14.5%	10.1%	9.6% ⑤	16.4% ④	8.2% ③
	医療関係者(医師、看護師など)の話	8.8%	5.3%	3.1%	12.6%	7.1% ④
	その他の人の話	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%
人から聞いた話	インターネットの情報	33.3% ②	21.1% ②	21.5% ①	25.7% ②	3.8%
	一般のガイドブック・本・雑誌	11.8%	4.8%	6.1%	9.8%	1.6%
	要介護者の旅行に関するガイドブック・本・雑誌	5.7%	1.8%	1.8%	6.6%	1.6%
	旅行会社のパンフレット	7.9%	2.6%	1.8%	8.2%	1.6%
	テレビ・ラジオ番組の情報	4.4%	1.8%	2.2%	4.9%	0.5%
その他の情報	-	-	-	-	-	
特にない	25.9%	30.3%	32.5%	30.6%	45.4%	

注1：丸数字は上位5項目の順位（「特にない」は除く）

注2：旅行経験者で見聞きした・調べた情報が「特にない」と答えた人は、旅行できると判断した情報、旅行時に役立った情報も「特にない」と答えた人に含めた。また、旅行非経験者で見聞きした・調べた情報が「特にない」と答えた人は旅行をあきらめる理由になった情報も「特にない」と答えた人に含めた。

2)旅行前に入手した情報の内容とそのニーズ

a)旅行経験者

旅行経験者に対し、要介護者と旅行できるかどうかを検討するために、見聞きした・調べた情報の内容を複数回答でたずねた。図表8の通り、「交通機関の設備やサービス、アクセス」(53.1%)、「宿泊先の風呂」(49.1%)、「観光地の設備やサービス」(48.7%)がそれぞれ半数前後を占める。前述のように多くの人は移動や移動中のトイレ、宿泊先での入浴について不安・困難を感じていたが、そのための設備やサービスに関する情報は事前にある程度得ていたといえる。

また、旅行前にもっと知っておきたかった情報の内容を複数回答でたずねたところ、「観光地の設備やサービス」(25.4%)の割合が比較的高かった。

b)旅行非経験者

旅行を検討したことがある旅行非経験者に対しては、要介護者と旅行できるかどうかを検討するために見聞きした・調べた情報の内容を複数回答でたずねた。図表8の通り、「交通機関の設備やサービス、アクセス」(45.4%)、「観光地の設備やサービス」(42.1%)が多く、「宿泊先のトイレ」(35.5%)、「宿泊先の風呂」(34.4%)が続いている。前出の図表7でみたように、旅行非経験者は「宿泊先の従業員の話」を見聞きした・調べた割合が低いことから、宿泊先の従業員以外の情報源、例えばインターネットなどから宿泊先のトイレや風呂などの設備に関する情報を得ていると考えられる。

また、もっと知りたい(知りたかった)情報の内容をたずねたところ、見聞きした・調べた情報と同様に「観光地の設備やサービス」(33.9%)と「交通機関の設備やサービス、アクセス」(32.2%)が多く、次に「宿泊先の風呂」(25.7%)、「宿泊先のトイレ」(25.1%)があがった。見聞きした・調べた情報の内容と比べると、「旅行中の介護・健康管理の方法」「旅行先の医療機関」をもっと知りたい(知りたかった)割合は

図表8 旅行前に入手した情報の内容<複数回答>

	旅行経験者(n=228)		旅行非経験者のうち旅行を検討したことがある人(n=183)	
	見聞きした・調べた	もっと知っておきたかった	見聞きした・調べた	もっと知りたい(知りたかった)
交通機関の設備やサービス、アクセス	53.1% ①	19.3% ②	45.4% ①	32.2% ②
観光地の設備やサービス	48.7% ③	25.4% ①	42.1% ②	33.9% ①
宿泊先の風呂	49.1% ②	16.2% ③	34.4% ④	25.7% ③
宿泊先のトイレ	37.7% ④	14.5% ④	35.5% ③	25.1% ④
宿泊先の寝具(ベッド、ふとんなど)	37.3% ⑤	7.5%	19.7% ⑤	14.2%
宿泊先のその他の設備やサービス	5.3%	2.2%	3.3%	4.9%
旅行中の食事のメニュー	32.0%	9.6%	19.7% ⑤	15.3%
旅行先の医療機関	21.5%	13.6% ⑤	17.5%	19.7%
旅行中の介護・健康管理の方法	20.6%	9.2%	18.0%	23.0% ⑤
どれもない	21.1%	41.2%	31.1%	29.0%

注：丸数字は上位5項目の順位（「どれもない」は除く）

やや高い。介護・医療に関する情報の潜在ニーズがあることがうかがえる。

旅行経験者と比べると、旅行非経験者では見聞きした・調べた割合は全体的に低い。一方、旅行非経験者がもっと知りたい（知りたかった）と答えた割合は、旅行経験者がもっと知っておきたかったと答えた割合より高い。旅行非経験者の情報のほうが不足しているとも考えられる。

3. まとめと課題

(1) 介護者の意識からみた要介護者の旅行の阻害要因

1) 旅行に対する介護者の不安

旅行非経験者が要介護者と旅行したことがない理由の1位は「要介護者が旅行するのは無理」、4位は「要介護者と旅行することに対して不安」であった。また、要介護者との旅行に対して旅行非経験者が感じる不安は、旅行経験者が旅行前に感じた不安に比べてかなり大きかった。要介護者との旅行は無理・不安という介護者の意識が旅行を阻害している。

2) 要介護者の意向・意見

一方、旅行したことがない理由の2位には「要介護者が旅行したがる」があがった。また、介護者からみた要介護者の旅行意向は、旅行非経験者でかなり低かった。要介護者が旅行したがるしていないと介護者が感じることも、旅行しない一因になっている。

要介護者と旅行できると判断した理由になった情報、旅行をあきらめた理由になった情報は、いずれも「自分が介護している要介護者の話」が最も多い。要介護者本人の意見は旅行できるかどうか判断する上でも鍵になっている。

3) 介護者の時間的・経済的事情

旅行したことがない理由の3・5位は、介護者に「時間の余裕がない」「お金の余裕がない」であった。一般の人が旅行しない理由は主に本人の時間と費用の余裕のなさであることが既存調査では示されている*³が、要介護者の旅行には介護者の時間と費用の余裕のなさがやや影響している。

4) 情報の不足

旅行経験者に比べて旅行非経験者のほうが旅行検討時に得た情報は少ないが、もっと知りたかったと答えた情報は多い。旅行非経験者にとっては必要な情報を得ることがより難しい、逆にみれば必要な情報を得られない人が旅行できないとも考えられる。

(2) 今後の課題

以上の調査結果をふまえ、「1(2)本調査研究の問題設定」で述べた要介護者の旅行に影響する「意識」「情報」「設備・サービス」という3つの面について、要介護者が旅

行を円滑におこなえるようにするための課題を述べる。

1)意識面に関して

要介護者との旅行に対して不安を抱く介護者は多いが、実際にはさほど困難が生じない場合もある。過度の不安を感じさせないためには、次の2)で述べる「情報」が重要であろう。

旅行したくない要介護者が無理に旅行する必要はもちろんない。ただし、介護者が要介護者に旅行意向がないと思っていても、実際には要介護者が旅行したがつている可能性はある。また、要介護者の旅行意向が本当に低いとしても、その背景には周囲の人に迷惑をかけたくないという気持ちがあることも考えられる。要介護者が本当に旅行したがつていないかどうかは、慎重に判断する必要がある。

2)情報面に関して

インターネット以外の情報、例えば要介護者の旅行に関するガイドブック・書籍や専門の相談窓口は少なからず存在するが、要介護者との旅行検討時にはほとんど活用されていない。また、インターネット上でも一般の旅行者向けの情報のほかに介護が必要な旅行者向けの情報があるが、後者が活用されているかどうかは明らかではない。要介護者の旅行に関する既存の情報源や相談窓口の周知が求められる。

既存の情報の活用促進とともに、情報の内容の充実も重要である。例えば、旅行中の体調悪化に不安を感じる人に対しては、体調悪化の予防や対処に役立つ情報が不安の軽減につながる。具体的には、潜在的ニーズが比較的高かった、旅行先の医療機関や旅行中の健康管理の方法に関する情報などがあげられる。これらの専門的な情報に加え、要介護者やその同行者の旅行体験記のようないわゆるクチコミ情報も、他の要介護者の旅行に対する不安を軽減し、旅行を円滑にするためには役立つと考えられる。

旅行検討時に見聞きした・調べた情報の内容としては、交通機関・観光地の設備・サービスや宿泊先の風呂が上位にあがった。にもかかわらず、移動や入浴に関して旅行時に困難を感じた人は多い。想定される理由のひとつは、各施設の設備やサービスに関する要介護者向けの情報の不足である。これに対しては、設備の状況や受けられるサービスなどについてによりきめ細かな情報提供が有効であろう。

もうひとつ想定される理由は、たとえ情報があっても設備やサービスが不十分なために移動や入浴の困難が解消しないということである。これに対しては、次の3)で述べる「設備・サービス」そのものの改善が課題となる。

3)設備・サービス面に関して

要介護者の旅行というと、移動のための設備・サービスが注目されがちであるが、移動は多くの人にとって旅行の手段であって目的ではない。要介護者の旅行の大きな目的のひとつが温泉などへの入浴である*4ことをふまえると、移動だけでなく入浴のための設備・サービスにももっと焦点が当てられるべきであろう。

一方、要介護者と旅行して疲れたと答えた介護者が多いことや、介護者のお金の余

裕のなさが要介護者と旅行しない一因になっていることから、介護者の身体的・経済的負担の軽減も課題である。入浴や移動が困難なことと介護者の負担が重いことの解決策としては、設備の改善のほかサービスの向上、すなわち介護者以外の人が手を貸すという方法もある。旅行の全行程に介助スタッフが同行すると人件費・交通費などの負担は重くなるが、例えば旅行先で入浴など一部の行為だけでも介助する人がいれば、比較的小さな負担で旅行できる。今回の調査では介助スタッフを旅行に同行した人や要介護者を対象とした団体旅行に参加した人はほとんどいなかった*⁵が、そうした旅行のニーズは高いと考えられる。

(研究開発室 上席主任研究員)

【注釈】

- *1 アンケート調査においては、国内外を問わず一泊以上の旅行を「旅行」とした。
- *2 旅行の実態に関する調査結果の詳細(以下の*4、*5のデータを含む)については、2012年6月に当研究所ホームページで公開した「News Release 家族を介護している800名に聞いた『要介護者の旅行に関する調査』」(<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/news/news1206.pdf>)で紹介しているほか、2013年1月発行の『Life Design Report』でも述べる予定である。
- *3 例えば、日本観光振興協会(2011)の調査では、国内観光旅行をしなかった理由として「時間的余裕がないから」「経済的余裕がないから」が15～59歳では1、2位にあがっている。
- *4 本調査において、旅行経験者が要介護者との旅行でおこなったことは「温泉浴」(60.5%)が最も多かった。
- *5 本調査において、旅行経験者が要介護者との旅行に「介護スタッフ(ホームヘルパー、ケアマネジャー、施設職員など)」を同行した割合は0.4%であった。また旅行の形態では「個人旅行」が92.1%を占め、「主に要介護者やその家族を対象とした団体旅行」は5.3%であった。

【参考文献】

- ・鎌田實, 2007, 『旅、あきらめないー高齢でも、障がいがあってもー』講談社。
- ・国土交通省, 2008, 『観光のユニバーサルデザイン化 手引き集～だれもが旅行を楽しめる環境づくりのために～』。
- ・篠塚恭一, 2011, 『介護旅行にでかけませんか』講談社。
- ・日本観光協会, 2008, 「特集 観光とバリアフリー」『観光』492。
- ・日本観光振興協会, 2011, 『平成22年度版 観光の実態と志向ー第29回 国民の観光に関する動向調査ー』。